

# 地域学校協働連携NEWS



こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→

## 天翔窯での陶芸教室

～ 江川小学校 ～

6月28日(金)、江川小学校の校外学習の様子取材しました。江川小学校では、5年生の図画工作科「けずって見つけたいい形」の単元学習を、天翔窯さんとの協働活動である陶芸体験という形で教育計画に位置づけて実施しています。6名の5年生は、ろくろ体験と成形体験を通して「ガンバ!」「うまいね〇〇ちゃん」等と互いに声を掛け合いながら、普段学校では味わえない貴重な体験学習に取り組んでいました。



天翔窯の佐野真二さん

学校の体験学習だけでなく、学校行事や教員等の研修にも対応されているそうです。「自分でイメージする機会が少なくなっている情報化の社会だからこそ、想像力が大切だと考えています。」と話してくださいました。



先生のお手本を見ながらイメージをふくらませます



神経を全集中・・・



皆が苦戦する中で唯一人小皿を完成させた芳賀さん。お見事でした。

子供たちの目の前で粘土がまたたく間に形を変えていく様子を見せていただきました。優れたお手本を見て、いろいろな技や工夫を知るといえる点が普通の授業と異なるところだと思います。ろくろ体験も含めて、学校の中だけでは体験できない貴重な学習だったと思います。

<5年担任 今井先生>



フキの葉を模様にした皿を作ろうとしています。



### <子供たちの声>

- ・ろくろは、はじめは形になっていただけ、上に持ち上げようとしたときに穴が開いてだめになってしまいました。難しかったです。
- ・粘土を触ってみると学校で使う油粘土と違って、少し固めだなと思いました。なかなかできない体験ができて楽しかったです。



味のある作品が並びました

佐野さんは、冒頭のあいさつで「何を作りたいのかイメージすることが大切です」と子供たちに話していました。その言葉どおり、「これは何にしたいの?」「それなら・・・」と、対話を通してそれぞれが描いているイメージを尊重されたやりとりが度々聞かれました。また、「かわいいのができたね」「そのカジカは勢いがあっていいな」といった褒め言葉も。「やってみないとわからないこともあるんだよね」の言葉も多少の失敗には負けない心を奮い立たせていました。佐野さんが放つその絶妙な言葉と支援によって笑顔とやる気をもたらしている様子が窺えました。この日天翔窯では、粘土に親しみ、造型のよさと奥深さを思う存分楽しむ江川小学校5年生の姿を見ることができました。